

## 1 - 2 北海道とその周辺の地震活動の推移 (1976年 - 1986年)

### Change in Seismicity in and around Hokkaido (1976-1986)

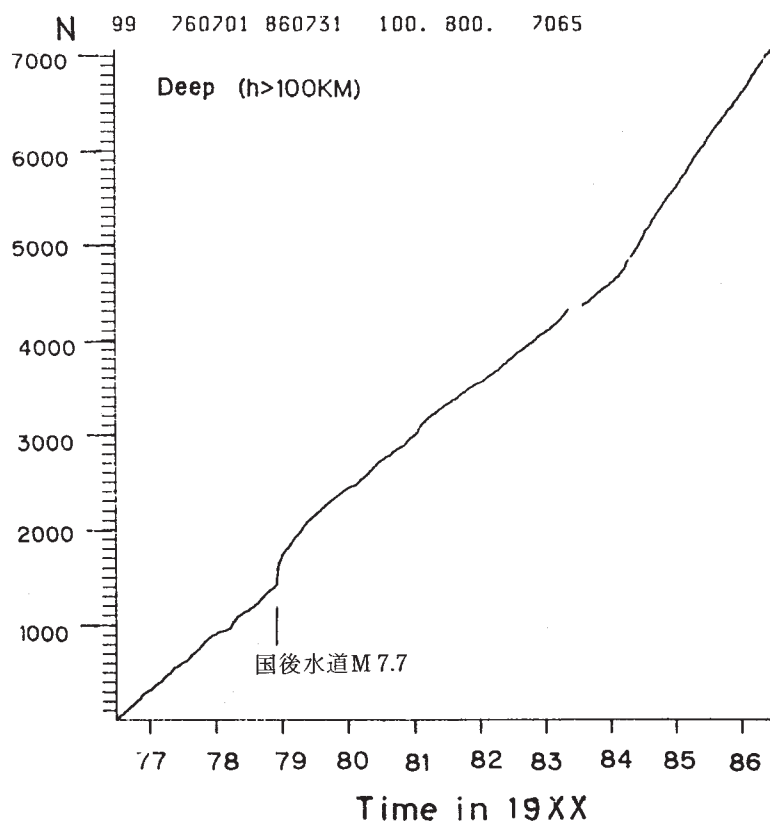
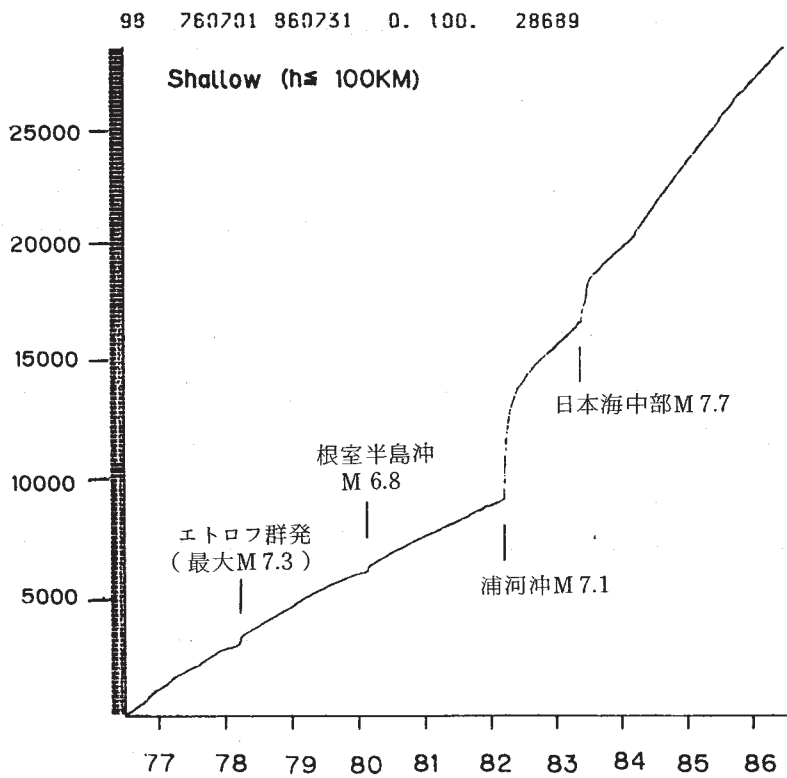
北海道大学 理学部

Faculty of Science, Hokkaido University

北海道大学理学部地震予知観測地域センターの観測開始以来 10 年間に震源が北海道とその周辺 (東経 138 度 - 150 度, 北緯 40 度 - 46 度の範囲内) に決定されたすべての地震の積算地震回数曲線を第 1 図に示す。この曲線を明瞭に増加させた浅発大地震が 4 回, 少々深発大地震が 1 回発生している。また, 1978 年のエトロフ島付近の大規模群発地震, 1980 年の根室半島沖地震の前には, かなり明瞭な地震活動の低下が認められる。また, 1981 年の終り頃から深発地震の発生頻度が低下していることがわかる。なお, 1984 年 4 月の初めから浅発地震, 深発地震の発生頻度が同時に増加を示しているのは, 観測点の増加による地震検知能力の向上による見かけのことである。

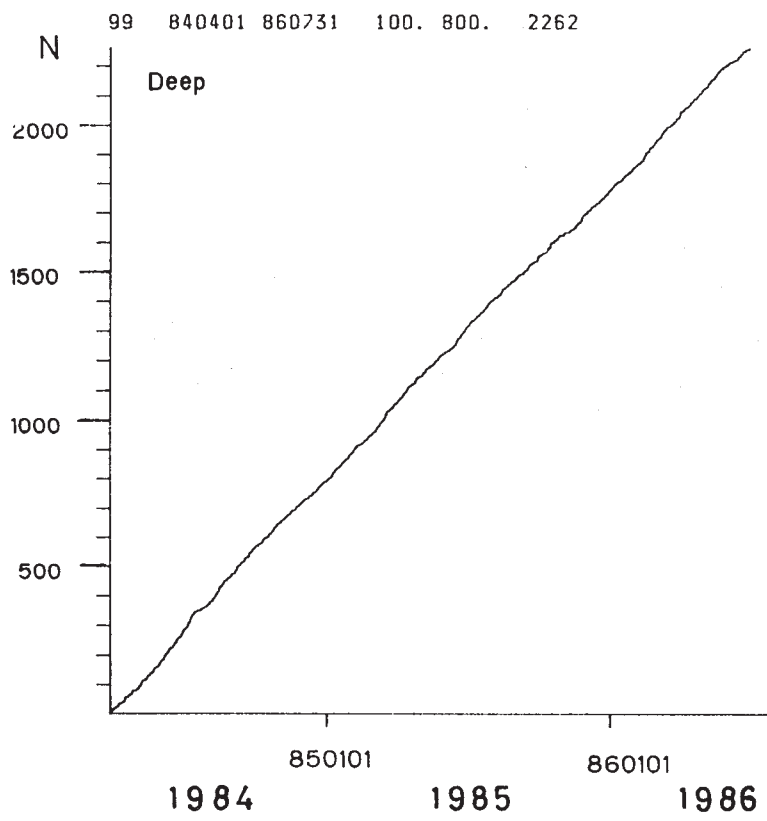
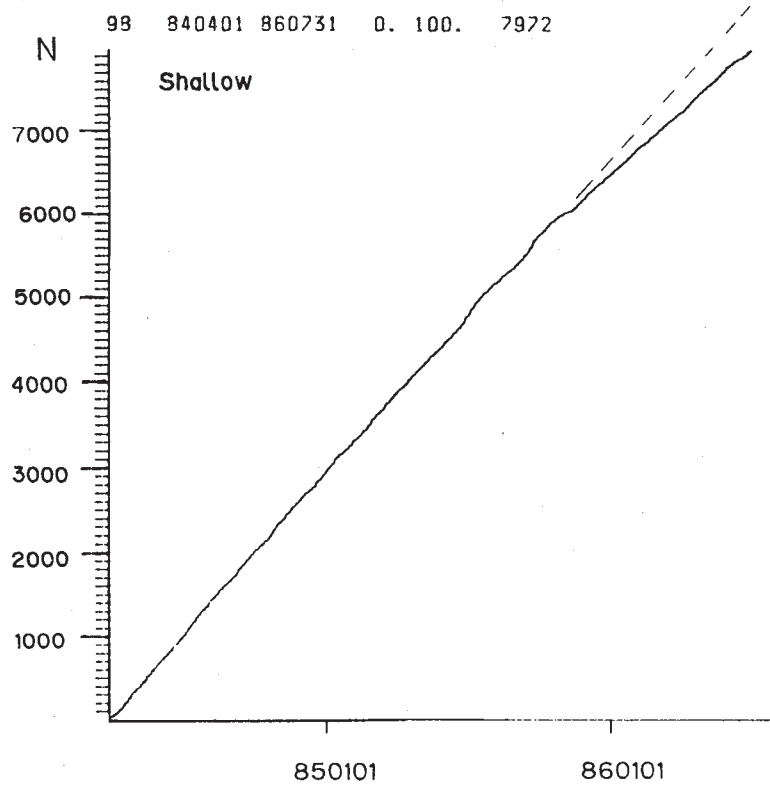
検知能力が一様である 1984 年 4 月以降の積算地震回数曲線を第 2 図に示す。1985 年末から浅発地震の発生頻度に低下が認められる。同じ時期の深発地震の発生頻度には特に変化は認められない。

(本谷 義信)



第1図 積算地震回数曲線 (1976.7-1986)

Fig.1 Cumulative curves of earthquakes located in and around Hokkaido. Note: Improvement of detection capability caused a clear false increase in occurrence rate of events at April, 1984.



第2図 積算地震回数曲線 (1984.4-1986)

Fig. 2 Detailed cumulative curves of earthquakes since April, 1984.